

## 6月2日発表のインド政策金利の引き下げについて

### 政策金利を7.5%から7.25%に引き下げ

インド準備銀行(中央銀行)は、6月2日に金融政策決定会合を開催し、政策金利であるレポレート(中央銀行が市中銀行に資金供給を行なう際の金利)を0.25%引き下げ年率7.25%に、リバースレポレート(中央銀行が市中銀行から資金を吸収する際の金利)を0.25%引き下げ年率6.25%とすることを決定しました。現金準備率は4.0%に据え置かれました。今回の決定は市場予想通りであり、今年に入って3回目の利下げとなります。

利下げ発表後の日本時間14時40分現在、インドルピーは対米ドルで前日比0.1%のインドルピー安、対円で同0.3%のインドルピー高で推移しています。

### 投資の弱さなどを受け、利下げを「前倒し」で実施

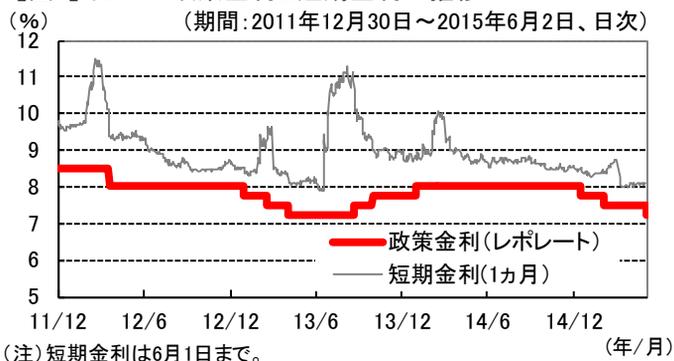
今回の決定の背景には、設備稼働率が低いこと、景気回復の指標が強弱まちまちであること、投資と信用の伸びが弱いことなどがあります。同中銀は、「保守的な見方では、モンスーン期の降雨がインフレ率に与える影響を確認するまで金融政策の判断を待つのがセオリーだ」としたうえで、インフレ率が想定範囲で推移するなか、「民間投資を促進するために利下げを前倒し、不確実性を払拭するデータを待つのがより適切なスタンスだ」としています。

同中銀はインフレに関するリスクとして、モンスーン期の少雨や、原油価格の上昇、予想されるFRB(米連邦準備制度理事会)による利上げを背景とした通貨変動などを挙げています。また、同中銀は今後のインフレ率について、今年8月まで鈍化した後、2016年1月に目標値の6%前後まで上昇するとみていることなどから、一部の市場参加者はさらなる利下げは限定的になるとみえています。

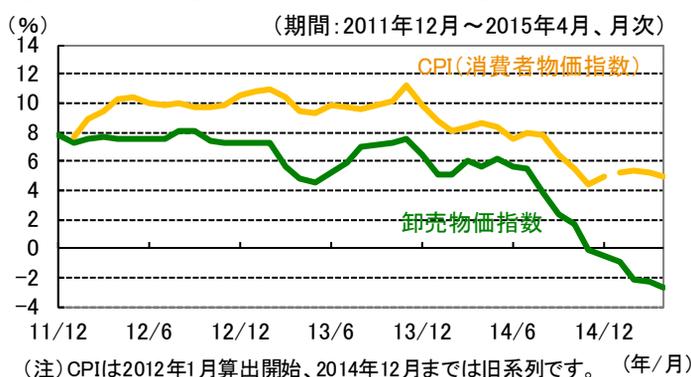
次回の金融政策決定会合は2015年8月4日に予定されています。

以上

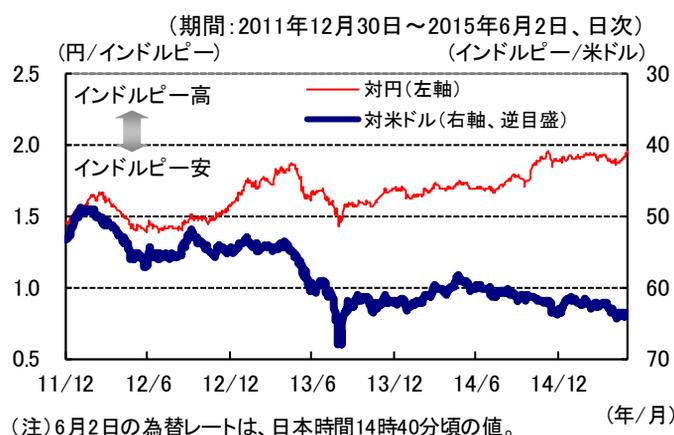
【図1】インドの政策金利と短期金利の推移



【図2】インドの物価指数(前年同月比)の推移



【図3】インドルピーの対円・対米ドルレートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成